

会 員 各 位

専門医生涯教育制度，皮膚腫瘍外科指導専門医認定施行細則の 改定及び一般社団法人移行後の定款について

社団法人 日本形成外科学会
理事長 平野 明喜
制度検討委員会
委員長 仲沢 弘明

2012年4月12日の通常総会にて専門医生涯教育制度，皮膚腫瘍外科指導専門医認定施行細則の一部が改定されましたので，ご報告申し上げます。

また，一般社団法人移行後の定款案につきましても，法人法に適合したものを調べ，総会で承認されたのでご報告申し上げます。

なお，新定款の施行は一般社団法人移行日の2013年3月1日となります。

総会で承認されました通り，定款変更案に，誤字脱字等の軽微な修正の必要が生じた場合，提案の趣旨を損なわない範囲での変更を行うことにつきまして，理事長に一任いたしますことをご了承いただけますようお願い申し上げます。

専門医生涯教育制度

改正理由：満65歳以上の専門医，名誉会員および特別会員の専門医資格更新における審査基準を明確にするため。	
改正前	改正後
第4章 専門医資格更新のための資格 第13条（例外規定） 満65歳以上の専門医，名誉会員および特別会員については， <u>資格更新のための点数の獲得は免除される。</u>	第4章 専門医資格更新のための資格 第13条（例外規定） 満65歳以上の専門医，名誉会員および特別会員については， <u>資格更新に際し，5年間の診療実績を審査する。</u>

皮膚腫瘍外科指導専門医認定施行細則

改正理由：皮膚腫瘍外科指導専門医資格取得者が2012（平成24）年4月1日以降より総数600名となり，資格取得者の常駐施設が全国的にカバーされたため。	
改正前	改正後
<p>第3章 指導専門医申請資格</p> <p>第9条</p> <p>指導専門医の認定を申請するものは，以下の条件を満たしていなければならない。</p> <p>1）日本形成外科学会認定専門医を取得後，<u>委員会（あるいは日本形成外科学会）が認定した研修施設</u>で3年以上の研修歴を有していること。</p> <p><u>*暫定措置として，日本形成外科学会認定施設および教育関連施設が研修施設として該当する。</u></p>	<p>第3章 指導専門医申請資格</p> <p>第9条</p> <p>指導専門医の認定を申請するものは，以下の条件を満たしていなければならない。</p> <p>1）日本形成外科学会認定専門医を取得後，<u>日本形成外科学会認定皮膚腫瘍外科指導専門医が常勤している施設</u>で，3年以上の研修歴を有していること。</p> <p><u>*但し，2015（平成27）年3月31日までの期間は，日本形成外科学会認定施設および教育関連施設における研修歴を認める。</u></p>

一般社団法人 日本形成外科学会定款 案

第1章 総則

(名称)

第1条 この法人は，一般社団法人 日本形成外科学会（英文で Japan Society of Plastic and Reconstructive Surgery）と称する。

(事務所)

第2条 この法人は，主たる事務所を東京都新宿区に置く。

第2章 目的及び事業

(目的)

第3条 この法人は，形成外科学に関する学理および応用の研究についての発表及び連絡と知識の交換，情報の提供等を行うことにより，形成外科学の進歩普及を図り，もってわが国における学術の発展と国民の福祉に寄与することを目的とする。

(事業)

第4条 この法人は，前条の目的を達成するため，次の事業を行う。

- (1) 学術集会，学術講習会の開催
- (2) 機関誌，論文集等の刊行
- (3) 形成外科専門医の認定
- (4) 内外の関係学術団体との連絡及び提携
- (5) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

2 前項の事業は本邦及び国外で行うものとする。

第3章 会員

(法人の構成員)

第5条 この法人の構成員を次のとおりとする。

- (1) 正会員：医師または医学研究者でこの法人の目的に賛同して入会した者
 - (2) 名誉会員：この法人に対して特別功労のあった者で理事会が推薦し、評議員会の議を経て会員総会で承認された者
 - (3) 特別会員：この法人に対して顕著な功績があった者で理事会が推薦し、評議員会の議を経て会員総会で承認された者
 - (4) 外国連絡会員（Corresponding Member）：この法人と海外の学会との関連を密にするため、海外の形成外科医の中から理事会が推薦し理事会、評議員会の議を経て会員総会で承認された者
 - (5) 賛助会員：この法人の目的、事業を賛助する個人または法人
- 2 前項の会員のうち、正会員をもって一般社団法人及び一般財団法人に関する法律（以下「法人法」という）上の社員とする。

(会員の資格の取得)

第6条 この法人の会員になろうとする者は、当該年度の会費及び入会金を添えて所定の申込書を理事長に提出し、理事会の承認を受けなければならない。ただし、名誉会員、特別会員、外国連絡会員に推薦された者は、入会の手続きを要せず、本人の承諾をもって会員となるものとする。

(入会金及び会費)

第7条 正会員および賛助会員は、この法人の事業活動に要する費用に充てるため、別に定める会費規定に基づき会費を納入しなければならない。

- 2 名誉会員・特別会員・外国連絡会員は、入会金及び会費を納めることを要しない。
- 3 既納の入会金及び会費は、いかなる事由があってもこれを返還しない。

(任意退会)

第8条 会員は、理事会において別に定める退会届を提出することにより、任意にいつでも退会することができる。

(除名)

第9条 会員が次のいずれかに該当するに至ったときは、会員総会の決議によって当該会員を除名することができる。ただし、当該会員総会の日の1週間前までに当該会員に通知し、かつ当該会員総会で弁明の機会を与えなければならない。

- (1) この法人の名誉を傷つけ、または本会の目的に違反する行為があったとき
- (2) この法人の会員としての義務に違反したとき
- (3) その他除名すべき正当な事由があるとき

(会員資格の喪失)

第10条 前2条の場合のほか、会員は、次のいずれかに該当するに至ったときは、その資格を喪失する。

- (1) 死亡もしくは失踪宣告を受けたとき
- (2) 法人が解散したとき
- (3) 会費の納入が継続して2年以上なされなかったとき
- (4) 総正会員が同意したとき

第4章 会員総会

第11条 会員総会は、すべての正会員をもって構成する。

2 前項の会員総会をもって法人法上の社員総会とする。

(権限)

第12条 会員総会は、次の事項について決議する。

- (1) 入会の基準並びに会費及び入会金の金額
- (2) 会員の除名
- (3) 理事及び監事の選任又は解任
- (4) 貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）の承認
- (5) 定款の変更
- (6) 解散及び残余財産の処分
- (7) 基本財産の処分
- (8) その他総会で決議するものとして法令又はこの定款で定められた事項

(開催)

第13条 会員総会は、定時総会とし、毎事業年度終了後3箇月以内に1回開催するほか、理事長が必要と認めるときは、臨時会員総会を開催することができる。

(招集)

第14条 会員総会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき理事長が招集する。

- 2 総正会員の議決権の10分の1以上の議決権を有する正会員は、理事長に対し、会員総会の目的である事項及び招集の理由を示して、会員総会の招集を請求することができる。
- 3 会員総会を招集するには、理事長は会員総会の日の1週間前までに、正会員に対して必要事項を記載した書面をもって通知する。ただし、会員総会に出席しない正会員が書面又は電磁的方法によって議決権を行使することができることを定めた場合には2週間前までに通知を発しなければならない。

(議長)

第15条 会員総会の議長は、理事長がこれに当たる。

(議決権)

第16条 会員総会における議決権は、正会員1名につき1個とする。

(決議)

第17条 会員総会の決議は、総正会員の議決権の過半数を有する正会員が出席し、出席した当該正会員の議決権の過半数をもって行う。

- 2 前項の規定にかかわらず、次の決議は、総正会員の議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行う。
 - (1) 会員の除名
 - (2) 監事の解任
 - (3) 定款の変更
 - (4) 解散
 - (5) 基本財産の処分
 - (6) その他法令で定められた事項

(議事録)

第18条 会員総会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

2 議長及び会員総会において選任された議事録署名人2名は、前項議事録に記名押印する。

第5章 役員

(役員を設置)

第19条 この法人に、次の役員を置く。

(1) 理事 15名以上20名以内

(2) 監事 2名以内

2 理事のうち1名を理事長、3名を常務理事とする。

3 前項の理事長をもって、法人法上の代表理事とし、常務理事をもって同法上の業務執行理事とする。

(役員を選任)

第20条 理事及び監事は、会員総会の決議によって選任する。

2 理事長及び常務理事は、理事会の決議によって理事の中から選定する。

3 この法人の理事のうちには、理事のいずれか1人及びその親族その他特別の関係がある者の合計数が、理事総数の3分の1を超えて含まれることになってはならない。

4 この法人の監事には、この法人の理事及びこの法人の使用人が含まれてはならない。また、各監事は、相互に親族その他特別の関係があってはならない。

(理事の職務及び権限)

第21条 理事は、理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより、職務を執行する。

2 理事長は、法令及びこの定款で定めるところにより、この法人を代表し、その業務を執行する。常務理事は、理事会において別に定めるところにより、この法人の業務を分担執行する。

3 理事長及び常務理事は、4箇月を超える間隔で毎事業年度2回以上、自己の職務の執行の状況を理事会に報告しなければならない。

(監事の職務及び権限)

第22条 監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。

2 監事は、いつでも、理事及び使用人に対して事業の報告を求め、この法人の業務及び財産の状況の調査をすることができる。

(役員任期)

第23条 理事及び監事の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時総会の終結のときまでとする。

2 理事又は監事については、再任を妨げない。ただし、連続2期を超えることはできない。

3 補欠として選任された理事又は監事の任期は、前任者の任期の満了するときまでとする。

4 理事又は監事は、第19条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお理事又は監事としての権利義務を有する。

(役員解任)

第24条 理事及び監事は、会員総会の決議によって解任することができる。

(報酬等)

第25条 役員は無給とする。

第6章 理事会

(構成)

第26条 この法人に理事会を置く。

2 理事会は、すべての理事をもって構成する。

(権限)

第27条 理事会は、次の職務を行う。

- (1) この法人の業務執行の決定
- (2) 理事の職務の執行の監督
- (3) 理事長及び常務理事の選定及び解職

(招集)

第28条 理事会は、毎事業年度4回、2箇月から6箇月以内に理事長が招集する。ただし各理事は理事長に対し理事会の目的である事項を示して、理事会の招集を請求することができる。理事長がその必要を認めたとときは、その請求があった日から2週間以内に臨時理事会を招集しなければならない。

2 理事長が欠けたとき又は職務を執行できないときは、各常務理事が理事会を招集する。

(議長)

第29条 理事会の議長は、理事長がこれに当たる。

(決議)

第30条 理事会の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

2 前項の規定にかかわらず、理事が理事会の目的である事項について提案した場合において、当該提案につき特別の利害関係を有する理事を除く理事全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、監事が当該提案について異議を述べたときを除き、当該提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなす。

(議事録)

第31条 理事会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

2 出席した理事長及び監事は、前項の議事録に記名押印する。

第7章 評議員及び評議員会

(評議員)

第32条 この法人に、100名以上200名以内の評議員を置く。

- 2 評議員の選出は、正会員の中から別に定める選挙規定にそって選出する。
- 3 評議員は、理事会の承認を得て、理事長が囑託する。ただし、無報酬とする。
- 4 評議員の任期は、毎年定時総会の終了の日の翌日から次次の定時総会の終了の日までとする。
- 5 評議員は、評議員会を構成し、理事会の意を受けてこの法人の運営に助言する。

(評議員会)

第33条 評議員会は、毎年度1回開催するほか、必要がある場合に開催する。

- 2 評議員会は、理事長が招集する。
- 3 評議員会の議長は、理事長がこれに当たる。
- 4 評議員会の議事については、議事録を作成する。議長及び出席した評議員の中から議事録署名人として

選任された2名は、議事録に記名押印する。

第8章 資産及び会計

(資産の構成)

第34条 この法人の資産は、基本財産及び運用財産の2種類とする。

- 2 基本財産とは、この法人の目的である事業を行うために不可欠なものとして理事会で定めた財産である。
- 3 運用財産は、基本財産以外の財産とする。

(基本財産の維持及び処分)

第35条 基本財産についてこの法人は、適正な維持及び管理に努めるものとする。

- 2 やむを得ない理由により基本財産の一部を処分又は担保に提供する場合には、理事会において、理事総数（現在数）の3分の2以上の賛成、及び会員総会において、総正会員の3分の2以上に当たる多数をもって決議することを要する。

(経費の支弁)

第36条 この法人の事業遂行に要する経費は、運用財産をもって支弁する。

(事業年度)

第37条 この法人の事業年度は、毎年3月1日から翌年2月末日までとする。

(事業計画及び収支予算)

第38条 この法人の事業計画書、収支予算書については、毎事業年度の開始の日の前日までに、理事長が作成し、理事会の承認を受けなければならない。これを変更する場合も、同様とする。

- 2 前項の書類については、主たる事務所に、当該事業年度が終了するまでの間備え置くものとする。

(事業報告及び決算)

第39条 この法人の事業報告及び決算については、毎事業年度終了後、理事長が次の書類を作成し、監事の監査を受けた上で、理事会の承認を経て、定例評議員会、および定時総会の承認を受けなければならない。

- (1) 事業報告
- (2) 事業報告の附属明細書
- (3) 貸借対照表
- (4) 損益計算書（正味財産増減計算書）
- (5) 貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）の附属明細書

- 2 前項の書類のほか、次の書類を主たる事務所に5年間備え置くとともに、定款、正会員名簿を主たる事務所に備え置くものとする。

- (1) 監査報告

(剰余金の分配の禁止)

第40条 当法人は、剰余金の分配を行うことができない。

第9章 定款の変更及び解散

(定款の変更)

第41条 この定款は、会員総会において、正会員数の3分の2以上の決議によって変更することができる。

(解散)

第42条 この法人は、会員総会における正会員数の3分の2以上の決議、その他法令で定められた事由により解散する。

(残余財産の処分)

第43条 この法人が清算をする場合において有する残余財産は、会員総会の決議を経て、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第5条第17号に掲げる法人又は国若しくは地方公共団体に贈与するものとする。

第10章 委員会

(委員会)

第44条 この法人には、会務執行のため、理事会の決議により、委員会を設置する。

2 理事会が必要と認めたときは、その決議により、前項の委員会のほか、特別委員会を置くことができる。

3 各委員会の委員は、理事会の決議を経て理事長が委嘱する。

4 委員会の任務、構成及び運営に関し必要な事項は、理事会の決議により別に定める。

第11章 事務局

(事務局の設置等)

第45条 この法人の事務を処理するため、事務局を設置する。

2 事務局には、所要の職員を置く。

3 重要な職員は、理事長が理事会の承認を得て任免する。

第12章 公告の方法

(公告の方法)

第46条 この法人の公告は、電子公告により行う。

2 事故その他やむを得ない事由によって前項の電子公告をすることができない場合は、官報に掲載する方法による。

附 則

1 この定款は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律第121条第1項において読み替えて準用する同法第106条第1項に定める一般法人の設立の登記の日から施行する。

2 この法人の最初の理事長は平野明喜、常務理事は細川互、鈴木茂彦、百東比古とする。

3 一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律第121条第1項において読み替えて準用する同法第106条第1項に定める特例民法法人の解散の登記と、一般法人の設立の登記を行ったときは、第32条の規定にかかわらず、解散の登記の日の前日を事業年度の末日とし、設立の登記の日を事業年度の開始日とする。